

令和7年度の研究方向

県小算研テーマ 見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方

岐阜県小中学校教育研究会 小学校算数科研究部会

1 令和7年度の県のテーマについて

学習指導要領における算数科の目標は、「**数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成すること**」とされ、

- (1) 知識及び技能に関する目標
 - (2) 思考力、判断力、表現力等に関する目標
 - (3) 学びに向かう力、人間性等に関する目標
- という3つの柱で整理されている。

この3つの柱で捉えた資質・能力は、数学的な見方・考え方と数学的活動に相互に関連をもたせながら、育成することが重要と考えられている。

また、第4次岐阜県教育振興基本計画（令和6年3月）では目指す人間像として「**「ふるさと岐阜」で育んだ自信と誇りを胸に、よりよい未来の実現に挑み続ける人**」を掲げ、育みたい力として「**自立力（主体的に学び、考え、行動する力）」「共生力（つながり、認め合い、支え合う力）」「創造力（よりよい未来を築いていく力）**」を挙げている。また、岐阜県小中学校教育研究会では、「未来に向けて社会の創り手となる児童生徒の育成を目指す学校教育の創造」をテーマに掲げ、①児童生徒の「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育む指導改善の推進、②児童生徒の豊かな心や健やかな体を育む教育の充実、③「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進〈教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進〉を挙げている。

これらを受け、今年度の小学校算数科研究部会は「**見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方**」をテーマに研究を進めてきた。各研究調査部及び各郡市の報告からは、単位を通して児童が働かせる見方・考え方を明確にし、児童の実態に合わせて具体化していくことが数学的に考える児童の育成につながることで実感できた。また、これまでの数学的活動を見直し、児童が数学的な見方・考え方を働かせながら学びを深めていけるような活動に改善し、さらに協働的な学びや個別最適な学びの視点からの指導の工夫やICTの活用も取り入れ、児童が深く学んでいく姿を目指した実践が多く見られた。そこで、来年度も県の研究テーマをもとに、各郡市の実態に合わせ

てより焦点化された研究テーマを設定し、児童の姿をもとに研究を進めていけるようにしたい。

県小算研テーマ

見方・考え方を働かせ、 数学的に考える児童を育てる指導の在り方

2 研究の視点について

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的に考える資質・能力を育成していくために、以下の2つの視点から研究を行っていく。

- ①児童の学習内容の系統性を踏まえ、単元や単位時間のねらいや学習課題の具体化
- ②児童の主体的・対話的で深い学びを実現するための単元や単位時間における手立ての充実

- ①児童の学習内容の系統性を踏まえ、単元や単位時間のねらいや学習課題の具体化

授業を実践するとき、「この単元や単位時間では児童にどんな資質・能力を育むのか」を明確にしなければならない。算数科や数学科の学習内容には系統性があり、その学年のその単元や単位時間だけを見ていてもそれを明確にすることは難しい。そこで、教師は単元における内容だけではなく、小学校6年間の算数科の学習内容や、中学校の数学の学習内容についても考慮し、その単元や単位時間では児童がどのような見方・考え方を働かせて、どのような資質・能力を高めていくのかを明確にすることが重要である。そうすることで、単元で育みたい資質・能力や単位時間のねらい、学習課題を具体化することができると考える。

- ②児童の主体的・対話的で深い学びを実現するための単元や単位時間の手立ての充実

①において、単位時間のねらいや児童の学習課題が具体化されたとき、児童がどのようにその内容を学ぶと効果的かを考える必要がある。導入や課題づくりまでの過程を工夫したり、教師の「根拠」「解釈」「統合」「発展」の観点から発問したりするなど、教師の手立てを充実させることにより、一層の深い学びを目指していきたい。さらに対話活動を工夫したり、ICTを有効に活用したりして、個別最適な学びや協働的な学びを一体的に充実させ、授業改善していくことも引き続き取り組んでいきたい。